

6 ボランティア

今大会でも、まちだサポーターズをはじめとするボランティアの活躍がありました。

まちだサポーターズはスポーツ祭東京2013のボランティアを母体に作られたボランティア組織で、東京2020大会を目指して活動を続けてきました。

自転車ロードレース

7月24日、25日に行われた自転車ロードレースでは、コース沿道で資機材の設置や撤去を行うコースサポーターとして、2日間で延べ397名のまちだサポーターズが活動しました。

市内を走行したのは約3.4kmという、コース全体から見れば短い距離でしたが、それでも資機材の設置や撤去、沿道の整理には多くの人手が必要で、競技実施にはボランティアの存在が必要不可欠でした。

活動に向けては、参加するコースサポーター全員が研修を受講し、当日の流れや持ち物、活動内容や動きについて事前に確認を行いました。コースサポーターの中には2019年に行われたテストイベントに参加した人が多く、大きな混乱なく活動が進みました。

本来であれば市役所職員が担うコースサポーターの統括役であるコースサポーターリーダーの役割も、まちだサポーターズが担いました。コースサポーターリーダーはコースサポーターが受講する研修とは別にリーダーのみの研修を受講し、競技前日には現地で組織委員会から派遣されるスタッフとの打ち合わせを行うなど、負担と責任が大きい活動ながらも与えられた役割を果たしていました。



ロードレースボランティアの皆さんに インタビューをしました!



舟木武子さん



Qいよいよ1年の延期を経て町田市でロードレースが始まりますが、お気持ちはいかがですか？

Aとても嬉しいです。

Qこの日を迎えるまで皆さんどうでしたか？

A決まった時点から8年ありましたので、すごくいろんなことを考えました。2020年から2021年にかけては、できるかな、できたら良いなとずっと思っていました。

Qわずかな時間ですが世界のトップ選手が町田市を駆け抜けます。どう感じますか？

A2019年のテストイベントに参加した時に感じたんですが、やっぱり現場は全然違うなど。生で見れるのは最高だと思って参加しました。

Q一緒に参加されているボランティアの皆さんの様子は？

A皆さんそれぞれいろんな思いがあったこの何年間だと思えますが、ここにいる方は皆さんそろって、成功してほしいと思っています。

Q2日間終えての感想は？

A良かったです。無事に終わって。楽しくって、お天気にも恵まれて本当良かったと思います。

藤江照雄さん



Qいよいよ東京オリンピックが始まりますが、いかがですか？

A待ちに待ったというか、本当にできるのかという心配もありましたけど、今日こうやってできるのは本当に良かったなと思っています。

Q町田のこの道路をすごいスピードで駆け抜けますが期待することは？

Aここが一番良い場所だと思うし、我々見れるかどうか分かりませんが、楽しみにして、スピード感を味わいたいと思います。

Qご自身の気持ちは？

A私も楽しみで、ぜひこの暑さの中ですけど頑張りたいと思います。

Q地元町田にオリンピックが来る気持ちは？

Aこの町田にいて参加できると思っていなかったのが、本当に楽しみで良かったと思っています。

Q2日間終わりいかがでしたか？

A暑さが大変でした。でもみんな一生懸命頑張ってくれたので無事に終わって良かったと思っています。

Qリーダーとして仲間の働きぶりなどはいかがでしたか？

Aこの暑さだったので、倒れたりしたら困るということが一番心配でした。そういうこともなくみんな元気に終わったのでリーダーとしてはそれが何よりです。

海東靖雄さん



Qいよいよ本日から始まりますがいかがですか？

Aついにこの日が来たって感じですね。7/23に開会式を終えて7/24から競技開始、この町田でもオリンピック開始ということで感動しています。

Q今日はどのように大会を支えていこうと思っていますか？

Aすごく良い天気にも恵まれたので、この町田を駆け抜ける時に町田の景色もちょっとくらい見てもらって、日本の良いところ町田の良いところを理解してもらって、それをみんなで支えられるような大会にしたいなと思います。

Q仲間たちの気持ちやテンションは？

A安全が第一で、コロナも熱中症もあるんですが、一生に一度のこういう機会ですのでぜひ楽しんで思いっきりみんなで充実した日を送れるように、頑張ろうという感じでやりたいと思います。

Q2日間終えた感想は？

Aまずは事故もなく、この暑さで倒れる人もなく、無事に終わって、みんなが無観客と少しずつ大勢来ていて、拍手で迎えてということができて良かったと思います。楽しめました。

Qボランティアとして参加し選手たちもご覧になっていかがでしたか？

A選手の方にも、気持ちよくというのか、思いっきり駆け抜けてもらえてたようで相当なスピードで走って行けたので、見る方としては本当に一瞬だったんですが、想定していた通りのレースがちゃんとできたのがやって良かったなと思いますね。

川村徹夫さん



Qいよいよ始まりますが率直な気持ちを教えてください

A私1964年生まれで、第1回東京オリンピックが生まれた年なので、招致2013年に決まった段階で絶対にオリンピックのボランティアに関わろうと思っていたので、やっとこの日が迎えられて本当にほっとしています。

Q決まってから8年とさらに1年延期されましたがその間の思いは？

A非常に世間全体が大変なことになったので、今できることは何かないかということでボランティアに役立つようないろんな研修なんかを探して、スキルアップをしました。

Qこれから町田の街を選手たちが駆け抜けますが今の気持ちは？

A本当一瞬なんですけど、この世界の大会の舞台がここにあるってことをみんなで共有して楽しんでいただいて、ただ天気がこんななので体第一で楽しんでいただければなと思います。

Qリーダーということで一緒に活動されるボランティアの方たちの雰囲気は？

A皆さんやる気まんまんなんで、ただ頑張りすぎちゃうといけないので、健康第一で楽しんでいただければなと思っています。

Q今日はこういった活動をされますか？

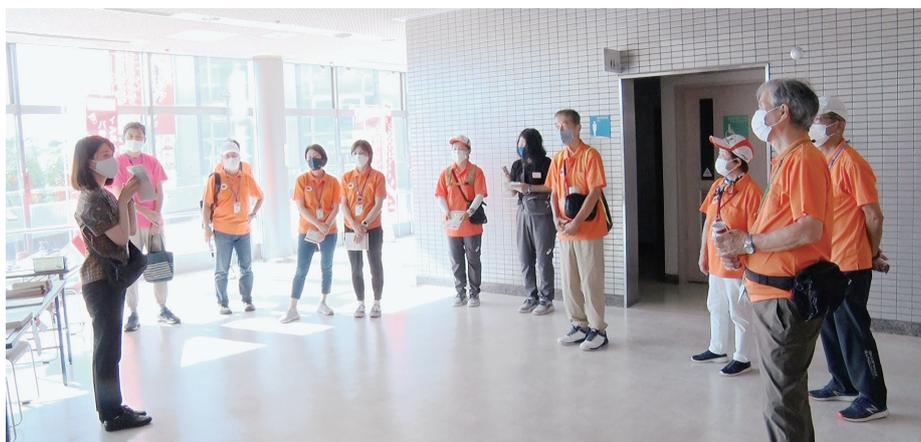
A我々はコース管理をするので、選手が走ってくるコースの設置をして、無観客ですけどいらっしゃる方がいるかもしれないので、そういう方に注意喚起し、コースに入らないようにして通っていただくという感じですね。カラーコーンの設置から始まります。

事前キャンプ公開練習

パラリンピックのバドミントンに出場するインドネシア代表の事前キャンプが市内で行われました。

事前キャンプは新型コロナウイルス感染症の影響により原則非公開で行われたため、ボランティアの活動機会は限られてしまいましたが、8月22日と23日は公開練習見学を行い入場者の受付・検温、会場の消毒などの活動でまちだサポーターズが活躍しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で予定していたイベントが実施できず、本来の想定よりもボランティアの活躍の場が減ってしまった中でも、活動に参加したボランティアからはオリンピックに関連する活動が1つでもできてよかったという声が聞けました。





公開練習見学ボランティアの皆さんに インタビューしました！

黄川田南さん



Q ボランティアに参加された経緯は？

A 今回オリンピック・パラリンピックが開催されるにあたって、町田市にインドネシアの方がパラバドミントンのキャンプをされるということで、ぜひ選手にパラリンピックで頑張っていたいただきたいなと、そのためにお手伝いできることがあれば何かやりたいなということで、たまたま今回募集があったので、応募させていただきました。選手にはぜひ頑張っていたいただきたいなと思っています。

Q パラバドミントンに興味があったんですか？

A バドミントンは私はやってないんですけど、バドミントンの競技は日本の選手も強いのでよくテレビでも見えますし、今までもインドネシアの選手がこちらに来てキャンプや公開練習をされたことがあり、その時にも私は来てやっているの、なんとなくインドネシアの選手っていうと親しみを感じて、今回そういうこともあって参りました。

Q 今日の意気込みや、どのようにサポートしていきたい、などあれば教えてください

A 選手の方が問題なく気持ち良く練習ができるように、周りの環境を整えていきたいなと思っています。

石黒弘子さん



Q 本日はどのような気持ちで参加されていますか？

A 以前こちらの体育館でブラインドサッカーを見まして、とても感動したんですね。ゴーグルをかけて皆さん見えない中で、体のアタックも強いし、それを見てものすごく感動しまして、近くだということもあってぜひボランティア兼、皆さんの活動を一目見てみたいなと思ひましてそれで応募させていただきました。

Q インドネシアの選手たちは以前もこちらに来ていて、ゆかりがあるようですがそのあたりはいかがですか？

A そこまではちょっと存じ上げなかったんですが、(以前開催された国際大会では)全世界中の方たちがパラバドミントンをされていて、本当に華やかでした。ここ一体が。背中にいろんな国名が書いてあるウェアを着ていて、それを見てこっちもすごく気分が高揚するといいますか、とても感動した覚えがありますので、また間近で見られて嬉しいなと思っています。

Q 本日の意気込みはありますか？

A コロナ禍の開催ですので、非常に難しい開催ではあると思うんですけど、できれば小さいお子さんとかに私が見た感動を感じていただけるような日になればいいなと思っています。

コラム

聖火リレーボランティアについて

7月9日に予定されていたオリンピック聖火リレーでは沿道でのボランティアとして、まちだサポーターズをはじめ商店街や自治会、体育協会、大原学園から合わせて1179名が集まりました。

本来であれば、揃いのTシャツを着用し沿道での資機材の設置や撤去、歩行者の整理誘導を行う予定でした。公道での聖火リレーの実施が中止になったことにより、活動の場がなくなりました。それでも、当初想定していた700名よりも多くのボランティアが集まり、オリンピックというイベントへの関心の高さ、ボランティア意識の高さがうかがえました。

